

2022年度（2023年3月期）第4四半期決算発表説明会

Q&A

- Q 1 : 2023年度利益見通しの補正後経常利益 954 億円について、2023-2025 中期計画で掲げている 1,500 億円の利益水準と大きなギャップがあるが、どのような受け止めか。
- A 1 : 今期の冬も必ずしもエネルギーの需給環境は予断を許さない状況と考えており、一定程度のリスクは見込んでいる。今年度においても、抜本的なコストダウンの実行、早期に利益貢献が見込める領域への投資等を同時並行で進め、利益の増大を図っていく。
- Q 2 : 3. 東証より、PBR1 倍未満の上場会社代表者向けに資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（現状分析・計画策定、開示、実行）に関する通知が出たが、今後どのように取り組むのか。また、取締役会での議論状況はどうか。
- A 2 : 求められる指標（資本コスト、資本収益性、市場評価）に関して向上を図っていく上でも、安定的にフリーキャッシュフローを伸ばして、継続的な企業価値向上に繋げていくことが重要と考えている。
中期経営計画でもお示しした通り、カンパニー・事業会社別のBS管理にも力を入れ、PDCAサイクルに基づくポートフォリオ管理を進める。
取締役会も現状分析等に関与し、取り組みの具体化等を議論している。
- Q 3 : 22年度実績について、第3Q時点での業績予想から、エネルギー・ソリューションセグメントを中心に800億円程度の増益となっているが、主な要因を教えてください。
- A 3 : ガス事業に関して、第3Q時点では原料調達リスクや原料調達コストの上昇を見込んでいたものの、第4Qにおいて調達リスクが顕在化せず、原料費が想定より抑制されたこと等が主な要因である。

以上